



京都市立小栗栖中学校通信

小栗栖だより

令和4年3月1日発行

No.14



まもなく「啓蟄（けいちつ）」です

啓蟄とは、啓は「ひらく」、蟄（ちつ）は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で、大地が暖まり冬眠していた虫が、春の訪れを感じ、穴から出てくる頃とされています。今年は3月5日がその日に当たります。小栗栖池に眠るカエルやメダカも少しずつ冬眠から目覚め活動してくる頃かと思います。池のメダカはなかなか発見しづらいですが、小さいために隔離していた校長室前のメダカはそろそろ動き始めています。



また、その前の3日は桃の節句です。2月の末から少しずつ暖かい日もあり、ゆっくりですが春の訪れを感じさせてくれます。

とは言え、京都ではまん延防止等重点措置が6日まで延長され、さらに新規感染者数は連日1000人を超えていたり、2月を終えました。心配していた3年生の私立入試、公立の前期選抜、1、2年生の学年末の定期考査は何とかクリアすることができましたが、3月8日に控えている公立中期選抜まで万全の体調で臨めることを願っています。もちろんこれには家族の協力も必要です。ご存じのように濃厚接触者になった場合の受検には多少なりとも規制がかかる可能性があります。みんなで協力しながら感染対策を講じていきたいと思っています。またそれと同時に、受検生につきましては、そういう家族の協力のもと、今の自分があることも忘れないでいてほしいと思います。

「怒り」を力に変える・・・

北京五輪が終了しました。大会前のアメリカのスポーツ雑誌社が日本のメダル獲得予想を「金が3個で合計19個」と予想していました。個人的にはもっと金メダルを獲得するのでは?と出場選手の名前を見ながら思っていました。結果的に予想はほぼ的中でした。4年に一度の大会は、そう簡単に日本人選手を勝たせてくれませんでした。もちろん「不運」ということもありましたが、「運も実力のうち」とよく言われます。さらに、そのメダルを競う海外の選手もこの大会のために努力を重ねてきた各国の代表ですから無理もありません。

「報われない努力もあるんだな」というコメントには少し違和感をもちました。努力がなければ世界4位は取れるはずはありません。判定に不満を持ちながら「怒り」を力に変えたあの精神力に感動です。

心温まる卒業証書授与式を・・・

3月15日は小栗栖中学校第46回卒業証書授与式を挙行いたします。コロナウイルス感染で、未だまん延防止等重点措置の状況が明確ではありません。無事に挙行できる方向で進んでおりますが、密を防ぐために、昨年同様お世話になりました地域の方々には、列席をお控えいただき、在校生も不在の式となります。その状況下でも「心温まる卒業証書授与式」となるよう、教職員一同準備いたしております。

卒業生が、小さい頃からお世話になりました皆様におかれましては、義務教育を終えて巣立っていく卒業生に出会う機会がございましたら、是非、励ましの言葉をかけていただけるとありがたいです。「新しい生活習慣」が求められる時代に、小栗栖中学校第46回卒業証書授与式が良き思い出になることを願っています。

＜当面の予定＞

- 3月 8日（火）公立中期選抜
- 11日（金）3年生を送る会
- 15日（火）卒業証書授与式
- 18日（金）修了式
- 23日（水）異動者HP掲載（午後）
- 30日（水）離任の会